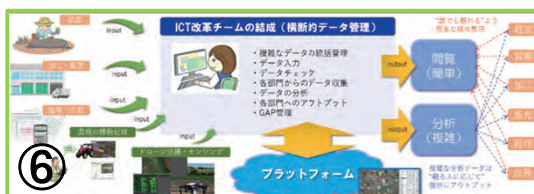


実証課題名：多様な人材が集う農業法人経営による全員参加型のスマート農業技術体系
(大規模露地野菜複合経営)の実証

経営概要：18ha(牛蒡5.5ha、人参6.5ha、里芋4ha、馬鈴薯1ha、らっきょう1ha、
ズッキーニ0.1ha)うち実証面積：18ha

導入技術

- ①ロボットトラクタ、②自動操舵補助トラクタ、③草刈りロボット、④ドローンを用いたほ場管理技術、
⑤ほ場内運搬技術、⑥農業現場に丸投げしないデータ管理システム



目標

データ入力に係る作業ロスを、従来型の手法と比較し年間延べ40時間削減する。
営農部門の体制を維持したまま、作付面積を新福青果第31期決算比で40%増加させる。
10aあたり売上高を新福青果第31期決算比で3割増加させる。

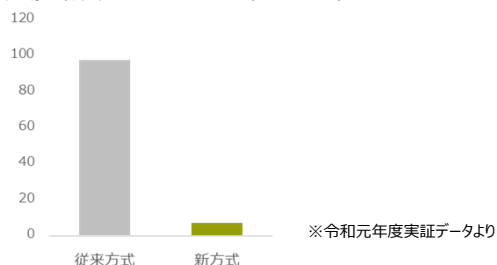
1 初年度の実証成果の概要

- データ入力に係る作業ロスを従来型手法と比較し、年間延べ625.5時間削減できた。
- 里芋植付及びその準備での機械作業における経験の浅い職員の参画率を50%向上させた。

2 導入技術の効果

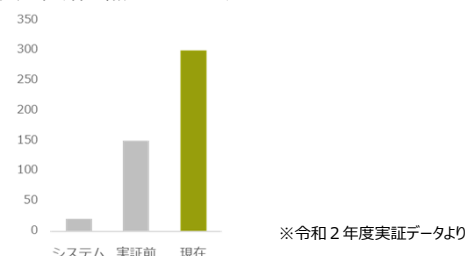
農業現場に丸投げしないデータ管理システム

- 農業現場に丸投げされた従来型のデータ管理システムに対して、農業現場の職員のデータの入力時間を93%削減した。



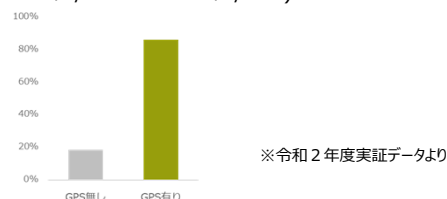
農業現場に丸投げしないデータ管理システム

- 自社データベースにて日常的に管理している農場関係データ項目数が実証開始時点より50%増加した。



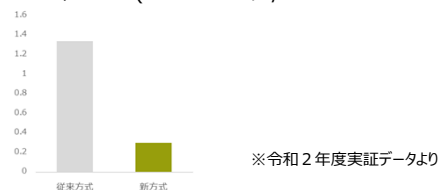
自動操舵補助トラクタ

- 自動操舵補助トラクタにより、経験の浅い職員でも、直線かつ等間隔での植付が可能となったことから、人参植付及びその準備における機械作業への経験の浅い職員の参画率が67.7%向上した(0.78時間/10a→3.63時間/10a)。



自動操舵補助トラクタ

- 自動操舵補助トラクタにより、経験の浅い職員でも、直線かつ等間隔での植付が可能となったことから、人参植付後の農薬散布へのブームスプレーヤーの導入が可能となり、農薬散布時間を約77.6%軽減した(延べ1.34時間/10a→延べ0.30時間/10a)。



3 今後の課題・展望

- (有) 新福青果の事業ビジョンである『「農業しなくなる」という思いが広がる取組」を実践するために、スマート農業の“感動を与える力”を最大限に発揮し、未来の農業人材の心を動かす取組を強化する。
- 都城市にキャンパスを構える南九州大学との連携を強化し、臨時講師、体験フィールド提供、インターンシップ、アルバイト雇用など様々な形を通じて、スマート農業を通じた産学連携を進める。
- スマート農業を通じて、(有)新福青果の職員が感じる仕事の自由度、達成度、多様性を高める。

問い合わせ先

(有)新福青果 営農部マネージャー 栗原貴史 (Email : t-kurihara@shinpukuseika.co.jp)